

東北の観光復興について

平成28年5月27日



Reconstruction Agency

新たなステージ 復興・創生へ

「東北観光アドバイザー会議」提言の概要① (平成28年4月15日)

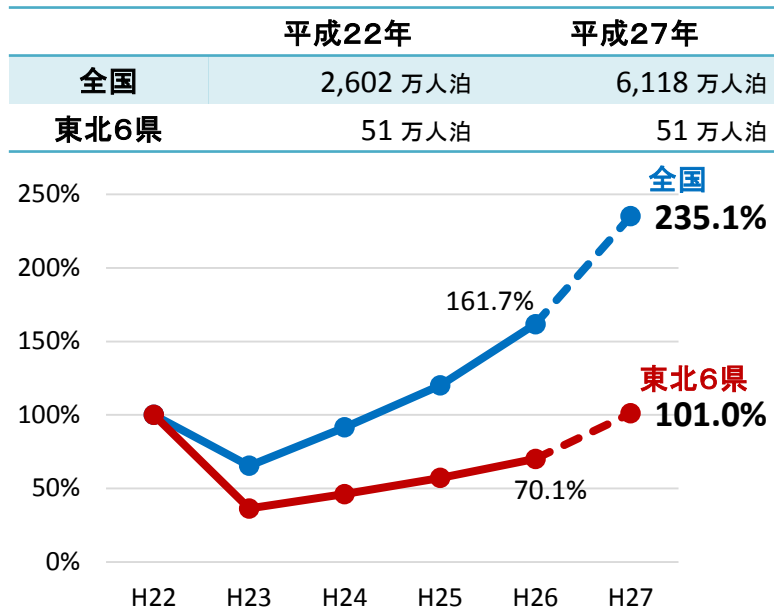
1. 趣旨

- 訪日外国人旅行者数2000万人の目標達成が視野に入ったことから、総理のもとで「明日の日本を支える観光ビジョン」が取りまとめられ、訪日外国人旅行者数を2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とする新たな目標が示された。
- 一方、東北観光は風評被害等の影響により、全国的なインバウンド急増の流れから大きな遅れ。平成28年を「東北観光復興元年」として、東北観光復興対策交付金の創設など観光復興関連予算を大幅に増額し、取組を強化。
- 平成28年3月10日、総理から、2020年に、東北の外国人宿泊者数を150万人泊に押し上げることを目指すとの目標が示された。
- この目標の実現に向け、観光復興関連予算を戦略的かつ効果的に活用し、官民が連携して取組を進めていくため、今後の観光復興の方向性を示すもの。

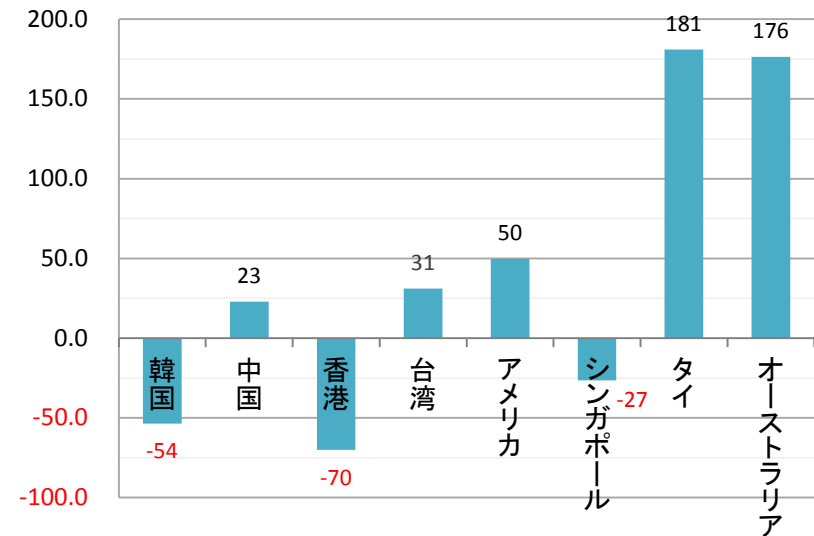
2. 現状と課題

- 韓国・香港などを中心に根強い風評被害が残る一方で、台湾・中国・タイなど成長市場もある。
- 海外における東北の観光地としての認知度が低い一方で、その潜在能力は高い。
- 防災・復興等の「学びの場」としての価値があるなど、観光にとどまらない交流機会創出の可能性もある。

外国人宿泊者数の推移



東北における主な市場別の震災前との比較



※観光庁「宿泊旅行統計調査」より
※従業員10人以上の宿泊施設

※平成27年は速報値

「東北観光アドバイザー会議」提言の概要②

3. 観光復興の方向性

① 東北のブランドイメージの創出～スター観光地の発掘・育成～

- ニセコ、白馬に並ぶ第3のスキーリゾートとしてブランド化
- 雪を突破口としつつ、温泉、桜、新緑、紅葉、祭りなどブランドの複層化、通年での旅行需要の創出
- 観光復興予算等を活用し、観光地域づくりやプロモーション等を官民連携して集中的・重点的に展開

② 受入体制強化～成功事例の創出と受入機運の醸成～

- 東北観光推進機構を中心とした広域観光周遊ルートの強化
- 北海道、関東のブランドの活用や、北海道新幹線沿線での途中下車観光の充実
- 古民家を活用したファームステイなど、住民との日常生活レベルでの交流(Local Experience)のある観光地域づくり

③ 「学びの場」としての魅力づくり～将来の観光交流を見据える～

- 農林漁業体験やアウトドアのアクティビティなど教育旅行の幅広いニーズに応えるコンテンツ整備
- 震災復興等のスタディツアーの実施や会議等の誘致により、当該分野の先端地域としてのブランド力を構築
- 海外との学校間交流の促進などあらゆる交流機会の活用

④ 仙台空港を中心としたゲートウェイ機能強化 ～3つのゲートウェイと立体観光～

- LCC拠点化等の仙台空港のゲートウェイ機能強化。仙台と北は函館、南は成田・羽田からのルート構築(3大ゲートウェイ)
- 空路、陸路に次ぐ第3のルートとしてのクルーズ船誘致
- 仙台周辺地域を「復興観光拠点都市圏」として重点支援し、その成功モデルを東北の各都市に普及・展開

⑤ 効果的なプロモーション

～広域プロモーションの強化・影響力のある者の活用～

- 海外の市場に影響力のある著名人やブロガーを通じた発信
- 5年間で2000人規模の海外旅行会社等の招請
- G7伊勢志摩サミットや関係閣僚会合でのグローバルメディアを活用した魅力発信やエクスカージョンの実施

⑥ 風評被害等震災の影響の払拭

～市場ごとに風評被害の程度を見極め～

- 風評被害が特に強い国・地域への粘り強い情報発信
- 外国人の来訪意欲を掻き立てるよう観光地としての魅力を提示
- 姉妹都市交流、学術交流など、観光に限らない訪問機会の創出
- 特に風評被害が強く残る福島については、PTA等に対するファムトリップの実施等教育旅行の強化

⑦ 観光先進地への新たな試み～全国のモデルを目指す～

- 「戻す」のではなく、「新たに創り出す」ことにより、観光先進地を目指す新たな試みの実施
- インターナショナルスクールや留学生向け教育旅行の開発
- 東北を知り東北を愛する地域密着型ガイドの養成
- 東北の魅力がいきる個人旅行者向け商品の開発

⑧ 持続可能な仕組みづくり～長期的な取組が不可欠～

- JNTOや東北観光推進機構が中心となったプロモーションと、地域がイニシアティブをとる受入体制強化の役割分担
- 広域的に連携した取組への東北観光復興対策交付金の重点的な配分や観光先進地を目指す民間の新たな試みの支援
- 観光分野での新たなビジネス創出にリスクマネーを供給する民間主導の東北観光ファンドの設置

<参考>「東北観光アドバイザー会議」について

- 東北の観光復興を効果的に推進するため、有識者の意見を聞くことを目的として、復興大臣の委任に基づき「東北観光アドバイザー会議」を設置。
- 4回の会議でのご議論や現地視察等を経て、平成28年4月15日に提言を復興大臣へ提出。

開催経緯

第1回 平成28年1月22日

- ・ 委員からのプレゼンテーション

第2回 平成28年2月14日～15日(南三陸町)

- ・ 東北6県、東北運輸局、東北地方整備局からのプレゼンテーション
- ・ 現地視察(石巻市、南三陸町、女川町)

第3回 平成28年3月2日

- ・ 交通関係の民間事業者からのヒアリング

第4回 平成28年3月31日

- ・ 提言について議論

委員

- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 久保 成人 | 国土交通省参与 【座長】
前観光庁長官 |
| 阿部 憲子 | 日本旅館国際女将会
南三陸ホテル観洋 女将 |
| Stefan Schauwecker | ジャパンガイド株式会社 代表取締役 |
| 清野 智 | 東北観光推進機構 会長
東日本旅客鉄道株式会社 取締役会長 |
| 田川 博己 | 日本旅行業協会 会長
株式会社ジェイティービー 代表取締役会長 |
| 西村 理佐 | 株式会社Follow Me Japan 代表取締役 |
| 星野 佳路 | 株式会社星野リゾート 代表取締役社長 |
| 本保 芳明 | 首都大学東京 都市環境学部特任教授
観光庁参与・初代観光庁長官 |
| 松山 良一 | 日本政府観光局(JNTO) 理事長 |
- ※オブザーバー: 観光庁次長



会議模様

現地視察(石巻市:モリウミアス)

- 観光復興を通して、新たなビジネスモデルの立ち上げを目指す民間の新たな試みを支援。
- 4月15日に取りまとめられた東北観光アドバイザー会議の提言を踏まえ、のべ約70件の提案の中から、13の提案を選定。
- 約1年間に渡って、旅行商品の開発、流通の仕組みの構築、プロモーションなどに取り組み、我が国の観光を牽引する民間企業各社と復興庁が総力を挙げ、東北の観光復興に取り組む。

Tohoku Snow Brandの構築

1. 冬の東北「樹氷; TOHOKU SNOW MONSTER」ブランドの商品展開 (福島民報社(東北七新聞社協議会幹事社))

国際スクールや留学生との交流機会の創出

2. 東北在住の留学生と作る「Go!Go!Tohoku!!」ブランド (仙台放送)
3. 国際スクールのための、日本の原体験修学旅行 (オリコム)

Local Experience (地域との交流)

4. 「東北と海外をつなぐ」着地型旅行商品流通モデル (ダイヤモンド・ビッグ社)
5. 東京の hostel からの欧米人バックパッカー送客 (サンフロンティア不動産)
6. 「宿泊×自転車シェア」東北のグリーンサイクリング (NTTドコモ)

新たな販路へのアプローチ

7. 東北路(TOHOKURO)プロジェクト (アール・ピー・アイ)
8. 欧州サプライヤー事業者向け東北ツアー (ミキ・ツーリスト)

スポーツイベントの活用

9. スポーツイベントエントリーをセットにしたツアーの展開 (東武トップツアーズ)

個人向けツアーの展開

10. 鉄道PASSで途中下車観光(びゅうトラベルサービス)
11. 東北TOMODACHIプロジェクト
一特別な体験でFITの聖地にー (近畿日本ツーリスト)
12. タイ人向け個人型パッケージツアーの展開 (エイチ・アイ・エス)
13. 「東北美人へ変身する旅」東北域内周遊型旅行創出事業 (JTB東北)

